佐々木氏の家紋　六角氏と京極氏

廣田平治

現在公式には京極家が七つ割四ツ目紋であり、六角家は隅立て七つ割四ツ目紋とされている。これについて私は疑義を覚える。

1．　四つ目紋の謂われは、宇多源氏の祖敦実親王が狛の長者と共に、近江八幡市の渡り合橋下に棲む大蛇を退治した時に、大蛇の目が、水面に映り四つに見えた事から、佐々木氏の家紋は四ツ目紋になったと云われる。この事から正式紋は、平四ツ目紋と考えられる。

2．　佐々木氏の本貫地は佐々木郷である。この地にある。佐々木神社は佐々木氏の氏神である。この地を信長に攻略されるまで統治していたのは六角氏である。故に六角氏は本家（適流）であり、京極氏は分家である。

江戸時代（宝暦 3 年 1753）の佐々木南北諸氏帳には京極家を近江源氏適流としながらも、六角家を源姓として敬意を表しているように見受けられる。（本当はこちらが適流と思える記載）平四ツ目紋は適流家の家紋と考えられるのではないのか？それ故江戸時代の丸亀京極家は平四ツ目紋を用いる。なぜ本家が隅立て四ツ目紋であるのか？

同じ佐々木の高島氏の分家である朽木氏の紋は隅立て四ツ目紋である。

家来の三雲氏も隅立て四ツ目紋である。（城跡の石の刻印）

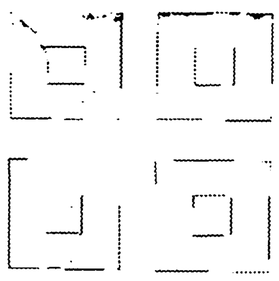
3．　京極家及び六角家の当主の肖像画を見ても江戸時代の様な家紋を付た図は見当たらない。有名な京極道誉（高氏）も道服である。

4．　六角家は江戸時代は旗本（後絶家）・前田家の家臣と振るわず、一方京極家は丸亀・多度津・豊岡・峯山と 4 家が大名家と繁栄し中でも丸亀京極家は柏原の徳源院（清竜寺）の京極家墓所を整備し、佐々木神社の復興を援助して、本家様な活動した結果家紋を本家の四ツ目紋に変更したと考えられる。故に没落した六角家は変形紋の角立て四ツ目紋にされたのではないか？六角家の墓所は京都田辺市の酬恩庵(一休寺)に六角承禎の墓がある

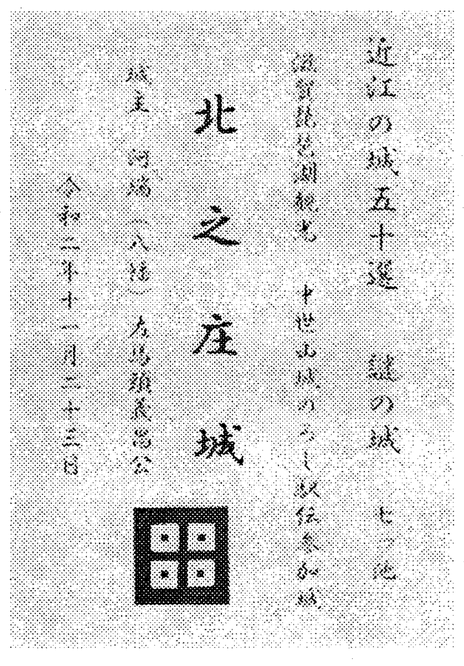
5，　北之庄城の河端義昌は六角氏 10 代の氏頼の次男であるから、正紋の七つ割四つ目紋とした。

6．　三雲城が隅立て四ツ目紋なので家来筋ではないので平四ツ目紋にする。

7．　以前開催された。観音寺城・六角氏のイベントでも平四ツ目紋が使用された。



観音寺・六角氏イベント



筆者作成の御城